

シンポジウム 2-1 (歯周治療・非外科処置)

非外科的歯周治療にマイクロスコープは必要とされているか? 2018年現在

阿部 修

平和歯科医院 (東京都)

歯内療法におけるマイクロスコープは、もはや必須の治療機器として位置づけられているが、歯周療法においてはどうか。歯周療法とマイクロスコープとの関係については、1990年代後半に外科的歯周治療における、いわゆる歯周形成外科に関していくつかの報告がなされているが、それらの多くは研究報告ではなく、拡大鏡下における正確な歯周外科手術によって得られる効果を示した症例報告が殆どであった。非外科的歯周治療においてはさらに論文が少なく、一部の歯科医師が保存や補綴、そして小児歯科や口腔外科にいたる全ての領域の歯科治療へのマイクロスコープの有効性を解説し、そうした中でマイクロスコープが歯石や柔らかいバイオフィルムの検出力を高め、歯肉縁上及び縁下の歯根表面の解剖学的形態を明らかにし、スケーラーチップの精密な操作を可能とする等を報告しているだけであった。研究論文としては殆ど存在せず、それ自体が論じられてこなかったといっても過言ではない。

現在、歯科用マクロスコープの普及率は増加の一途であり、非外科的歯周治療におけるマイクロスコープの有効性についても、すでに多くの歯科医師や歯科衛生士が感じているようである。しかし、現実的には歯周療法においてマイクロスコープを積極的に応用する専門医もいれば、それを必要としないとする専門医も多数存在している。この認識は今後変わってゆくのだろうか。

外科的歯周治療へのマイクロスコープの有効性を示した最初の報告から約20年経過した2018年現在、マイクロスコープと歯周療法の関係はどこまで示されているのだろうか。特に非外科的歯周治療について、その認識はどうなっているのか。歯周療法においてマイクロスコープは必要なのか、そうでないのか。今後、非外科的歯周治療におけるマイクロスコープが、どのような位置づけとなって行くのかを、現在得られる情報を基に考えてみたい。

平成 12 年 東京歯科大学 卒業

平成 12 年～ 医療法人社団 平和歯科医院勤務

平成 14 年 東京歯科大学 大学院 (微生物学)

平成 18 年 東京歯科大学 大学院修了 歯学博士

平成 18 年～ 東京大学医科学研究所 幹細胞組織医工学研究部門 客員研究員 (～平成 20 年)

医療法人社団 平和歯科医院開業

東京歯科大学非常勤講師

平成 28 年～ 日本歯内療法学会国際交流委員会

平成 30 年～ 関東歯内療法学会常任理事